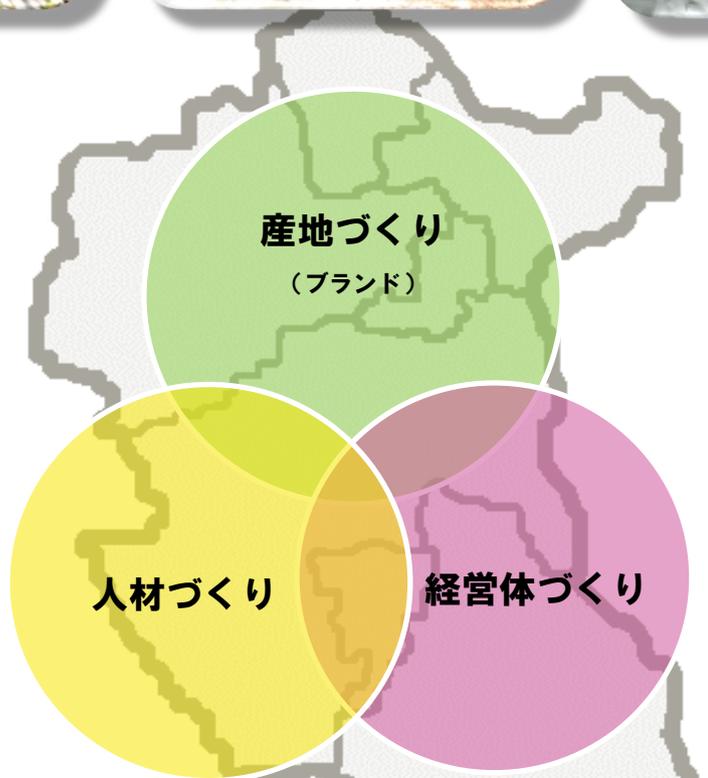


平成26年度普及活動成果集



**めざせ！！
元気な担い手
もうかる農業**



はじめに

平成 26 年は、春は好天に恵まれたものの、7～8月は冷夏長雨のため降水量は極端に多く、記録的な日照不足となりました。九州に影響した台風は5個と多く、秋は平年並に回復、12月は低温と気象変動が大きな一年でした。

農業を取り巻く国際情勢も大きく変わりつつある中、国の農政も「4つの改革」が実行され、日本の農業施策は大きく転換しています。また、農畜産物価格は原油価格が大きく変動する中、資材価格高止まりが続き、今後の農業経営に対する大きな制約要素となっています。

飯塚地域は、福岡・北九州都市圏に隣接した交通の要所で、古くからの果樹団地、良質米、野菜、花き、畜産等の多様な農業生産が営まれています。しかし、他の地域と同様に農家数の減少と高齢化は進み、担い手の確保、個別農家や営農組織の規模拡大及び経営力の強化が急務となっています。一方で、新規就農者や担い手の法人化は少しずつ増え、農産物の加工等の6次産業化に取り組む農家や組織も出てくるようになり、これらの農産物や加工品を直売所に出荷するなど多様な販売ルートを展開するようになっています。

このような情勢の中、当普及指導センターでは、「県農業・農村振興基本計画」に沿って、平成 26 年度はさらに地域農業の担い手確保やブランド産地の構築のための普及活動を強化し、「めざせ！！元気な担い手 もうかる農業」をスローガンとして、「人材づくり」、「経営体づくり」、「ブランド産地づくり」という3つの「づくり」を重点活動目標として職員一丸となり地域農業の振興に取り組みました。

この成果集は、農家や関係機関等の方々に広く普及指導センターの活動を理解していただくために、平成 26 年度の主な活動成果を取りまとめたものです。地域農業の振興と農家の方々の経営改善の一助になれば幸いに存じます。

平成 27 年 3 月

飯塚農林事務所飯塚普及指導センター
センター長 尾形武文

目 次

1 平成 26 年度農業生産・気象の概況

- (1) 気象概況・気象災害・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 農業生産の概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

2 普及活動の主な成果

- (1) 地域で育てよう元気な担い手・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- (2) 持続性のある水田農業の担い手の育成・・・・・・・・ 10
- (3) 水稲「元気つくし」の面積拡大と麦・大豆の安定生産を目指して・・・・ 11
- (4) アスパラガス収量向上による産地強化・・・・・・・・ 12
- (5) トルコギキョウの育苗技術の向上による生産コスト削減・・・・・・・・ 13
- (6) ブドウ優良品種の導入と種なし栽培の拡大・・・・・・・・ 14
- (7) 将来を担う大家畜農家の経営安定化支援・・・・・・ 15
- (8) 注目の品種・技術の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (9) 各種表彰（国・県）・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

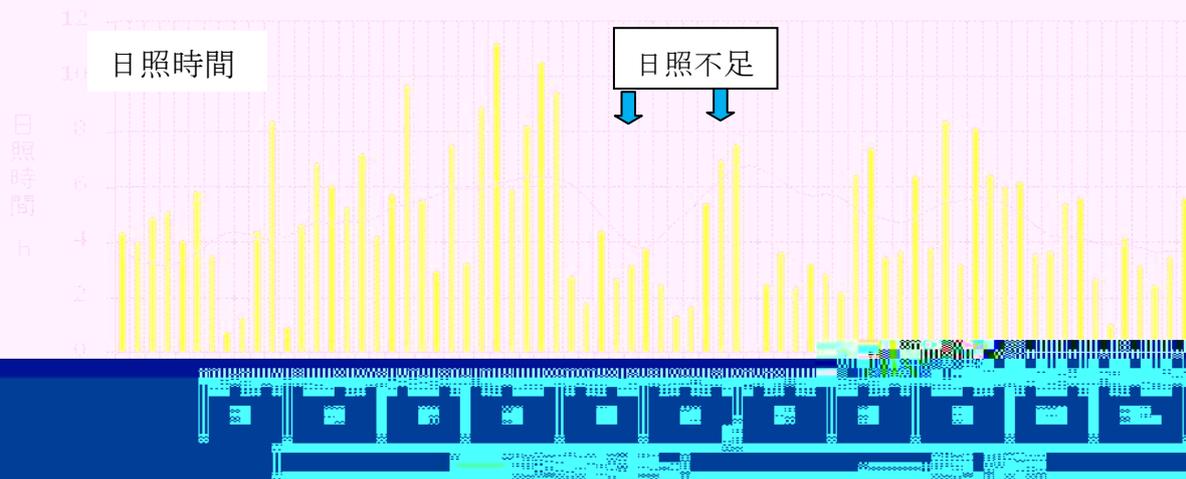
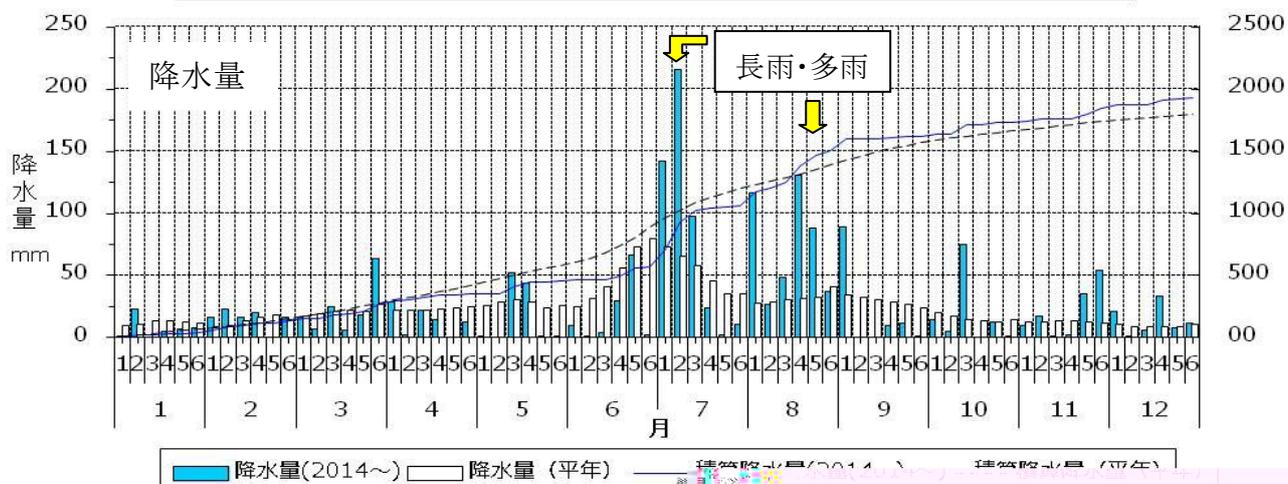
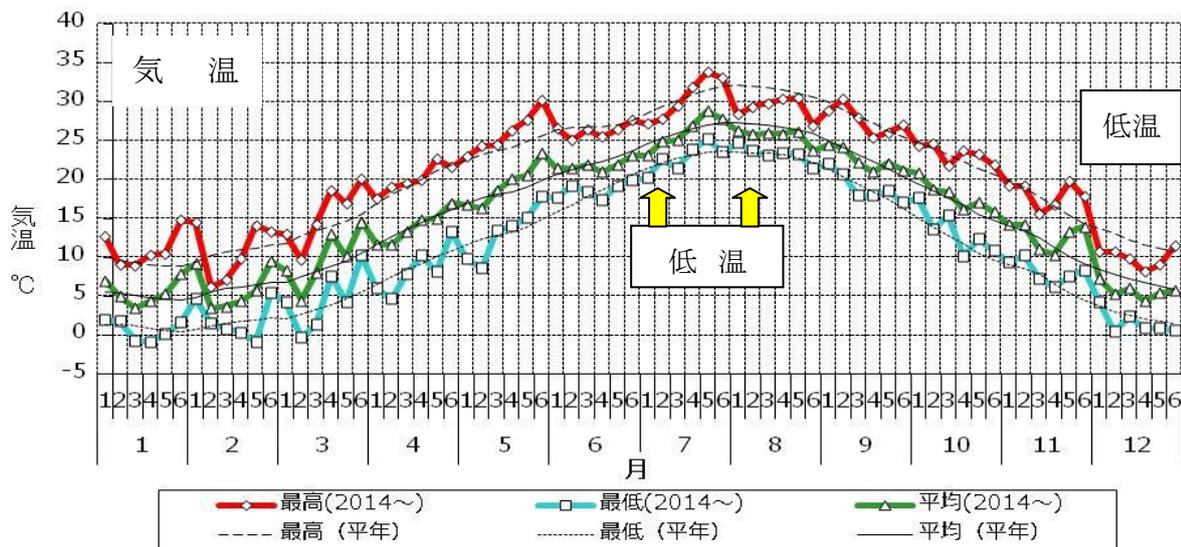
3 参考資料

- (1) 普及指導センターの活動体制・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- (2) 現地実証・展示ほ一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- (3) 現地活動情報一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- (4) 普及指導員調査研究一覧・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (5) 飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会活動実績・・・・・・ 26

1 平成 26 年度気象・農業生産の概要

(1) 気象概況

平成 26 年度の気温は、6～8月は7月下旬を除き、記録的な低温となり、9～11月は平年並みで、12月は低くなりました。特に、7～8月は長雨の影響で降水量は極端に多くなり、記録的な日照不足となりました。(飯塚アメダスデータ)

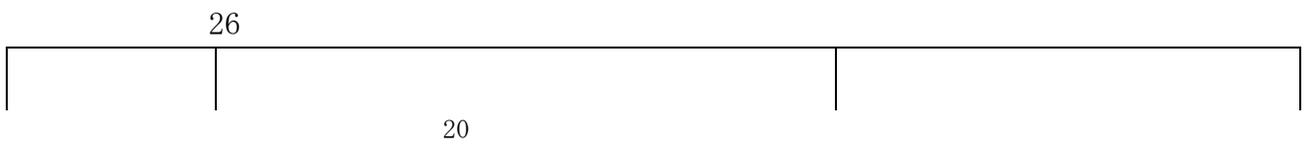


449mm

266

76

39



			11
		○	11

(2) 農業生産の概況

<普通作>

○長雨・日照不足の影響で低収量であった水稻

早期水稻の田植えは4月14日から始まり、田植後の気温は低く経過し、活着や初期生育は平年に比べ遅れ気味で推移しました。その後、晴天が続き生育は回復したものの、6月中旬以降からの断続的な降雨により、生育不良となりました。また、8月の記録的な低温・日照不足の影響により、成熟期は平年より3日程度遅れ、9月初めまで収穫作業が続きました。

普通期水稻についても、6月中旬以降の断続的な降雨により、生育は軟弱徒長気味で経過しました。8月の長雨・日照不足の影響で、出穂期、成熟期ともに平年より5日程度遅くなりました。

8月の長雨・日照不足の影響により、早期米、夢つくしは登熟不良となり、収量・品質ともに不良となりました。一方、8月下旬以降に出穂した元気つくし、ヒノヒカリについては9月以降の天候が回復したことで品質は良好でしたが、収量は平年よりやや少なくなりました。近年、面積が拡大している飼料米については、収量はほぼ確保されました。

病害虫については、いもち病、紋枯病が一部地域で発生しました。中生以降の品種では、出穂前の日照不足、低温の影響により稲こうじ病が多発しました。



○品質が良好だった麦（平成25年播種）

播種作業は11月上旬から始まりましたが、降雨の影響で作業が遅れ12月上旬がピークとなりました。11月下旬～1月中旬にかけて、気温が平年に比べかなり低く経過したことから、出芽、生育の遅れが見られました。また、12月下旬～3月上旬まで降雨が多く、麦踏み・土入れ等中間管理が不十分なほ場が多く、日照不足も重なり草丈は低く茎数も少なくなりました。3月以降は気温の上昇に伴い生育は回復し、出穂期は平年よりやや早く、成熟期は平年並となりました。

収量は前年を若干上回りましたが、初期の生育不良による穂数不足や湿害の影響、雑草害もあり、収量は低い状況でした。品質については、出穂期以降の天候に恵まれ、大麦・小麦と良好でした。

○長雨・日照不足の影響により生育量が不足した大豆

播種作業は7月1日から始まりましたが、その後の断続的な降雨により播種が中断され、本格的な播種は7月19日からとなり、播種ピークは7月23～27日頃となりました。一部まき直しもありましたが、7月19日以降に播種されたほ場では、出芽は安定していました。

しかし、8月は降雨が多く、日照時間が極端に少ない状況で、中間管理等が出来ず、湿害や雑草害が多発しました。開花期は8月25日前後となり、前年より遅れました。中耕・培土ができなかったため、9月の降雨の影響や10月13日に接近した台風19号の影響を大きく受け、多くのほ場で倒伏しました。成熟期は前年より3日程度遅く、収穫作業は12月下旬までかかりました。8月の長雨・日照不足により主茎長等の生育量が不足したことで、収量は前年並となりました。



大豆の土入れ作業

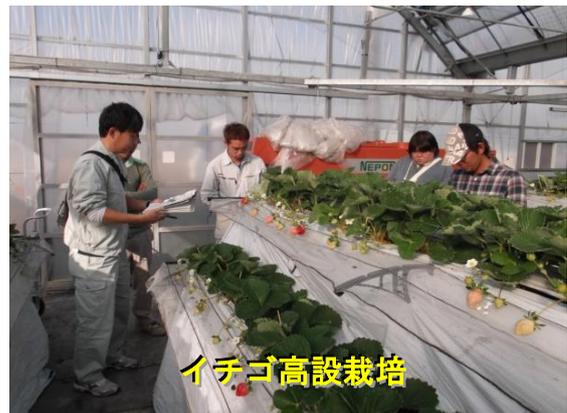
害虫については、ハスモンヨトウ、カメムシ類による青立ち株の発生は少ない状況でした。また、ホソアオゲイトウ、ヒロハフウリンホウズキ、アサガオ類等の雑草発生も問題となりました。

<野菜>

○長雨・日照不足により苗の充実不足が目立ったイチゴ

育苗期間中は極端な日照不足となったため、徒長気味の生育となり苗の充実不足も一部見受けられたが、全体的には前年並の苗が育成されました。

定植後の生育は、9月下旬～10月中旬にかけてたびたび台風が接近し、降雨や低温傾向により生育は緩慢となりました。出荷開始も遅れ年内収量は減少しましたが、極端な出荷ピークもなく例年よりも大玉傾向で品質も高く推移しました。



イチゴ高設栽培

○8月中旬～9月上旬の長雨に泣かされたブロッコリー

8月の長雨により低温傾向であったため、育苗は比較的順調でした。しかし、定植適期の8月中旬以降、圃場準備が出来ずに定植作業が滞りました。9月5日頃から天候が回復したため定植は一気に進み、作型が分散されなかったことから11月に出荷が集中し、価格が低迷しました。12月上旬からの低温傾向により出荷量が減少し、以降は極端な出荷量の増加はなく安定した出荷が続く、出荷量、単価ともに前年を上回りました。



アスパラガス

○天候不良により適期管理ができなかったアスパラガス

1月の気温は寒暖を繰り返しながらも平年値

を上回る日が多く、春芽は順調な出荷となりました。前年秋の気象の影響により貯蔵根への養分蓄積が十分でなく、早めの立茎を行いました。夏芽は夏期の天候不良が続き、かん水不足、斑点性病害の発生により収量が減少し、前年実績を下回りました。

<花き>

○厳しい気象条件の中、栽培管理を徹底し頑張ったキク

5月下旬～6月上旬の高温・乾燥により花芽分化が急ぎ、8月の盆用の出荷時期が早まりました。6月中旬～8月下旬にかけては、降雨と低日照が続き中山間地では白さび病が多発しました。ハダニやヨトウガ等の害虫被害は少なかったですが、カメムシ類は多発となりました。

このような厳しい生産環境の中、開花調節や草丈確保、病害発生等栽培管理に細心の注意が必要でした。燃油価格高騰等の影響で施設ギク栽培が減少傾向で共販量はやや減少しましたが、販売単価は前年と同等となりました。

○順調な生育となった秋出しトルコギキョウ、生産が拡大中の冬春出しトルコギキョウ

秋出しトルコギキョウは、定植時（7月下旬～8月上旬）の長雨・日照不足の影響もみられず順調な生育となりました。開花は平年並～やや遅い程度で、出荷最盛期は10月下旬～11月中旬になりました。例年に比べて病害虫の発生は少なく、9、10月にまとまった日照量があったためブラッシングの発生も少なく、品質は良好でした。共販量は63万本で、単価も安定して推移したため売上も好調でした。



一方、冬春出しのトルコギキョウについては、9月中旬～10月上旬に定植し、3～4月に出荷する作型で、1～2月の栽培夜温を低温とする低コスト栽培となっています。生産者数は10戸で生産面積が拡大しています。

○病害に苦しんだシンテッポウユリ

J Aふくおか嘉穂では、16名がシンテッポウユリを作付けしました。初期生育は順調でしたが、夏期の長雨・日照不足の影響で、葉枯病の多発と開花の遅れにより、共販出荷量は減少しました。3名の生産者が作期拡大のため9月出荷の作型に取り組みました。



○順調に生育し、単価が良かったケイトウ

J Aふくおか嘉穂支所では生産者が4名減り、15名によりケイトウが生産されました。長雨・低日照の影響は少なく、害虫の発生も少なかったため、順調に生育しました。

生産面積の減少により、共販出荷量は減りましたが、販売単価は前年よりも高く推移しました。

<果樹>

○雨により品質、単価に影響を受けたブドウ

トンネル、露地では発芽・展葉は前年並、開花期は前年より1日早くなりました。開花期の天候に恵まれ着粒は良好でしたが、5月の乾燥により果粒肥大は園地によるバラつきが大きくなりました。着色は、加温栽培では良好でしたが、無加温、トンネル栽培では着果過多と着色期の日照不足により不良となりました。加温栽培では収穫期の裂果、無加温以降は着色不良、成熟遅れの問題はありましたが、出荷量は対前年比105%、単価は対前年比96%となりました。



○黒星病に泣かされたナシ

開花期は前年より「豊水」で2日、「幸水」で4日遅くなりました。開花期の天候が良く全般的に結実は良好でした。果実肥大は、「幸水」は良好、「豊水」では着果量が多く小玉が心配されましたが、後期肥大により最終的には大玉となりました。「豊水」ではみつ症や変形果が多く、「新高」では後期肥大により裂果が散見されました。病害では、3月下旬の降雨により黒星病の発生が多くなり、その後の防除でも十分な効果が得られず、大きな減収要因となりました。そのため、出荷量は対前年比3%となり、販売金額は対前年比77%と大きく落ち込みました。

○肥大良好で、増収したカキ

発芽、展葉などの初期生育は、3月中下旬の高温により前年より早くなりましたが、4月上旬以降の低温により、満開期は前年並となりました。「富有」の含核数は前年よりやや多く、結実は良好でした。8月の長雨により、果実の肥大は良かったものの、へたすき果も多くなり、樹上軟果が多く発生しました。カメムシが8月に飛来し、吸汁害が発生しました。樹上軟果は多かったものの、果実肥大がそれ以上に良好で、カキの出荷量は対前年比121%となり、単価は対前年比93%となりました。



○栽培面積の拡大や雨よけ栽培の導入で、出荷量が過去最高となったイチジク

露地栽培では、発芽期、着果始期ともに平年並となりました。収穫始期は、8月の長雨・日照不足により、裂果・腐敗果や疫病が多発し減収となり、着色不良・糖度低下といった品質の低下が目立ちました。しかし全期間を通しては、栽培面積の拡大や雨よけ

栽培の導入拡大により、イチジクの出荷量は対前年比 122%、単価は対前年比 96%となり、販売金額が対前年比 117%と過去最高となりました。

<畜産>

○肉用牛

肥育経営では枝肉単価は上昇傾向にありましたが、肥育素牛の高騰と購入飼料の高止まりにより経営は厳しい状況が続きました。

そのような中、新たな経営戦略として精肉の直売や地域ブランド牛を使った加工品開発等、6次産業化に取り組む農家も現れました。

繁殖経営は飼養戸数 23 戸、飼養頭数 667 頭と前年並の生産規模となりました。市場価格は高値で推移しており、今後しばらくはこの傾向が続くと考えられます。

○酪農

飼養戸数は 44 戸から 42 戸、飼養頭数は 2,029 頭から 1,69 頭と減少しました。生乳出荷については、前年実績

2 普及活動の主な成果

(1) 地域で育てよう元気な担い手

～来たれ新規就農者、飯塚地域へ！！～

○背景

次代を担う新たな就農者の確保・定着のためには、関係機関が一体となって就農環境を整備し、多面的な支援を継続的に行うことが重要です。このため、年度に飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会 以下、「協議会」で策定した「新規就農支援プログラム」 以下、「支援プログラム」の実践に向けた具体的な取り組みが課題となっています。

○対象概況

新規就農者、就農希望者、農業関係高校生、福岡県農業大学校生

○活動内容

地域担い手育成の一層の推進を図るため、協議会担い手育成部会に専門班「新規就農対策班」を新たに設置し、実務担当者間の共通課題の検討や情報交換を行いました。

飯塚市では支援プログラムを実行に移すため、市・JA・農業委員会・普及指導センター等関係機関で新規就農希望者に対する推進体制や支援内容について検討を重ねました。普及指導センターは、実践プログラムを飯塚市版に組替えたり、先進地事例等の情報提供や活用できる補助事業の支援を行いました。

また、担い手候補である農業関係高校生や福岡県農業大学校生に対して、農業セミナー 写真1 や就農相談等を行い、高校生には農業の魅力発見を、大学生には就農への誘導を推進しました。就農1～3年目の新規就農者や農業青年クラブ員に対しては営農基礎講座を 回 共通2回、部門別 回 開催し、技術の向上等や経営改善に向けた取り組みを推進しました 写真2。



写真1 イチジクパック詰め体験をする高校生



写真2 イチゴ若手生産者の技術向上研修



写真3 ふくおか農林漁業就業セミナー・就業相談会に参加する飯塚市

○成果

1年度の就農相談者は 名、農業大学校進学者は6名、新規就農者は □名です。

また、7月に「飯塚市がんばる農業応援協議会」が発足し、月から新規就農希望者や新規就農者に対して市独自の支援策（就農研修と経営開始に必要な初期費用の補助）が開始されました。協議会は就農相談会等に参加し、飯塚市のPRを行っています（写真3）。

○今後の取り組み

飯塚市の取り組みをモデルに、関係機関と連携して各市町にあった支援プログラムの実践を支援し、担い手確保や就農定着のための取り組みを推進します。

～集落営農組織の再編・設立と法人化及び個別大規模農家の経営体質強化～

地域の水田農業の維持・発展のためには、集落営農組織は欠かすこのできない存在となっており、新たな組織の立上げと併せて、組織経営の安定や永続性の確保のための体制づくりが重要な課題となっています。

また、個別大規模農家においても、販売力や信用力の強化、雇用環境の整備等経営体質の強化が喫緊の課題です。また経営主の高齢化による事業継承問題の解決も必要となってきています。

集落営農組織 53 組織（うち特定農業団体に準ずる組織 13 組織、農業法人 10 組織）
個別大規模農家 59 戸（水田経営面積概ね 10ha 以上）

飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会担い手育成部会（事務局：普及指導センター）を中心に担い手の育成支援に取り組んでいます。これに加え、本年は嘉麻市農業員会による「担い手の育成・確保に係る事例発表会」に参画しました。さらに、JAふくおか嘉穂においては、昨年度策定した地域営農ビジョンの策定をもとに、集落営農組織の設立及び法人化を推進しており、普及センターも連携して支援を行いました。

また、法人化計画等を有する組織や法人化を予定している個別大規模農家に対し、アドバイザー派遣事業等を活用して、法人化や経営改善を支援した。

嘉麻市の事例発表会後、2 集落において、組織設立の検討がはじまり、1 つは法人の立上げを目指しています。嘉麻市内では事例発表会をきっかけとして組織設立に向けた機運が高まりました。

JAふくおか嘉穂管内においては、本年度 2 つの集落営農組織による法人が立ち上がり、農地中間管理事業を活用して、集落農地の集約化が進められています。



今後とも関係機関と連携しながら、水田農業の担い手育成を推進していきます。



(4) アスパラガス収量向上による産地強化

～新規生産者の重点支援～

○背景

管内のアスパラガスは栽培年数の短い生産者が多く、毎年数名が新たに栽培を始め、肥培管理や病害虫対策などの早期技術習得が課題でした。そこで、21年度以降に作付した新規生産者の技術習得支援に重点をおいた普及活動に取り組みました。

○対象概況

J A直轄アスパラガス部会 4戸（うち新規生産者 2戸）

J Aふくおか嘉穂アスパラガス部会 22戸（うち新規生産者 12戸）

○活動内容

J Aと連携し、推進作物として位置づけ、関心のある農業者に対し、栽培概要や経営指標等の説明、推進を行いました。

新規に生産を開始したほ場は、親茎の仕立てや整枝、施肥など生育段階に合わせた管理作業が多く、病害虫の発生に応じた防除適期の判断が難しいため、J Aと連携して栽培年数の短い生産者を中心に、定植時より月1～2回の現地巡回を行いました。また、重要な管理の時期は、全体現地研修会を開催し、2カ月毎に栽培管理情報の発行を行いました。

○成果

新規にアスパラガスの生産を開始した方は5年間で15戸（164a）です。今年度の全体の生産量は45tで、夏季の日照不足により前年比90%と若干下回りましたが、定植1年目の新規生産者のアスパラガスは順調に生育し、収量実績として、これまでで一番多い300kg/10aを超えるほ場もありました。

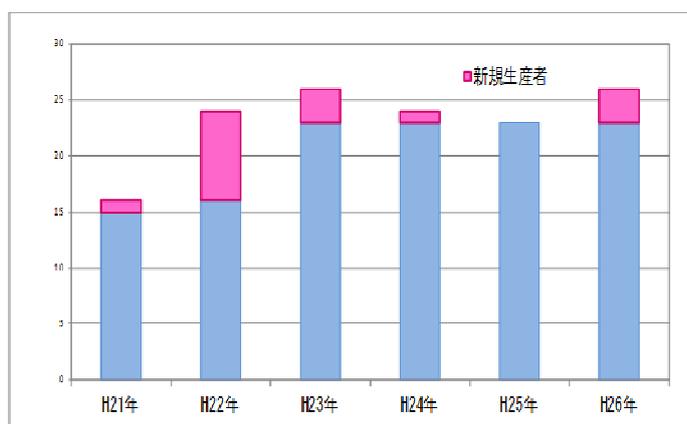


図1 管内のアスパラガス生産者の推移

○今後の取り組み

引き続き新規生産者への重点支援を行うとともに、今後はさらなる生産力向上のため、栽培年数や個別の課題に対応した支援を行う予定です。

(5) トルコギキョウの育苗技術の向上による生産コスト削減

～秋出しトルコギキョウの種子冷蔵+冷房育苗技術の向上～

○背景

秋出しトルコギキョウの育苗では、吸水種子の冷蔵処理と冷房育苗を組み合わせる必要があります。育苗に失敗すると生育期に高所ロゼットなどの生育障害が起こりやすくなることから、生育ステージに合わせた温度管理や防除など細やかな育苗管理技術の徹底が求められます。

トルコギキョウの冷房苗を購入すると、10aあたり60万円程度の経費が必要となり、生産コストが高くなります。普及指導センターでは自家育苗の普及と技術向上を図ることで、安定生産とコスト削減に取り組みました。

○対象概況

管内のトルコギキョウ生産者 18戸 488a

○活動内容

育苗技術向上のため育苗講習会を開催し、吸水種子の冷蔵処理方法および冷房育苗の重要性や育苗のポイントを指導しました。また、現地研修会および巡回指導にて苗の生育状況、温度確認、病害虫防除の徹底による良質苗の確保に努めました。

○成果

今年度新たに自家育苗をはじめた生産者を含めた全戸で苗が順調に生育し、高所ロゼット等の生育障害の発生も見られませんでした。26年度に自家育苗を行った生産者は15戸で前年より2戸増加し、管内生産者の84%が取り組むようになりました。また、自家育苗を行うことで生産コストの2割削減を達成しました。



写真1 トルコギキョウの育苗風景



写真2 トルコギキョウの栽培風景

○今後の取り組み

さらなる良質苗作りを支援し、生産コストの削減および栽培技術の高位平準化による経営安定を図ります。

(6) ブドウ優良品種の導入と種なし栽培の拡大

～消費者ニーズにあったブドウ栽培の拡大～

○背景

J Aふくおか嘉穂ぶどう部会は種なし巨峰、ピオーネ主体の産地で、販売戦略上、種なし栽培面積の拡大や新商材としての「シャインマスカット」の導入拡大が大きな課題となっていました。

J A直鞍ぶどう部会は巨峰を主体とした産地で、収量や品質の年次差が大きいことが問題となっていました。種なしブドウ栽培は生産が安定すると共に、種がないことで食べやすいことから、市場単価も高い状況にあるため、ブドウ農家の経営安定のために種なし大粒品種（ピオーネ・シャインマスカット等）の導入拡大を図る必要があり24～26年度の普及課題として取り組みました。

○対象概況

J Aふくおか嘉穂ぶどう部会	37名	共販面積	11ha
J A直鞍ぶどう部会	108名	栽培面積	74ha

○活動内容

産地改革計画に種なし大粒品種の拡大を取り上げ、J Aと連携して推進を行いました。特に「シャインマスカット」は新しい品種であるため、品種特性や栽培技術及び市場評価等について情報提供を行いながら導入を推進しました。併せて、改植による導入のために「果樹経営支援対策事業」の紹介を行いました。また、栽培技術が未確立な点については展示ほを設け調査を行うとともに、他産地の情報収集を行いました。

○成果

24年から種なし大粒品種の栽培面積が増加（表1）し、26年にはJ Aふくおか嘉穂ぶどう部会で「シャインマスカット」の共選出荷が始まりました。



写真1 シャインマスカット

表1 種なし大粒系ブドウ面積の推移

	ピオーネ	シャインマスカット	種無し巨峰	合計(a)
24年	595	117	555	1,267
26年	679	175	560	1,414

26年シャインマスカット共販実績(J Aふくおか嘉穂)
数量 759kg

○今後の取り組み

「シャインマスカット」の市場評価を高めるための品質向上(適正着果量の厳守と適期収穫)とともに種なし大粒品種の導入を推進に取り組んでいきます。

(7) 将来を担う大家畜農家の経営安定化支援

～営農基礎講座で若手肥育農家の育成支援～

○背景

筑豊地域には 30 戸の肉用牛肥育農家が点在し、その中で若手農家も育ってきています。しかし、それぞれの交流は少なく、お互いに情報交換をしい、切磋琢磨する機会はほとんどありませんでした。これら若手農業者の育成は産地維持の面からも重要な課題となっています

そこで、将来を担う若手農家の技術向上と情報交換を図るための場を創出しました。

○対象概況

若手肥育農家 7 戸（黒毛和牛肥育 2 戸、交雑種肥育 5 戸）

○活動内容

筑豊地域（嘉飯・田川地区）の若手肥育農家の仲間作りを通じた飼養管理技術の向上を目的に営農基礎講座を開設しました。

講座では、バーンミーティングを中心とした農場改善提案を行い、個々の観察力・飼養管理技術の向上を図りました。

また、飼養管理・品種による食味の違いを学ぶため、各自の出荷牛肉を使った食味会を開催し、食肉に関する知識の習得を行いました。



写真1 バーンミーティングによる改善提案



写真2 食肉食味会

○成果

基本技術習得と情報交換の場ができたことにより、個々の技術向上が図られるとともに、若手肥育農家同士の連携の輪ができました。

同年代の経営を見ることにより、自己経営の改善意欲が高まるとともに、6次化の取り組みにチャレンジする農家も現れました。

○今後の取り組み

今後も、若手農家の仲間作りを通して、農家連携への支援を行います。

(8) 注目の品種・技術の紹介

①地域に合わせたイチゴの新作型・新技術への挑戦

○要約

156

2,898kg/10a



写真1 厳寒期どり作型（左）と慣行作型

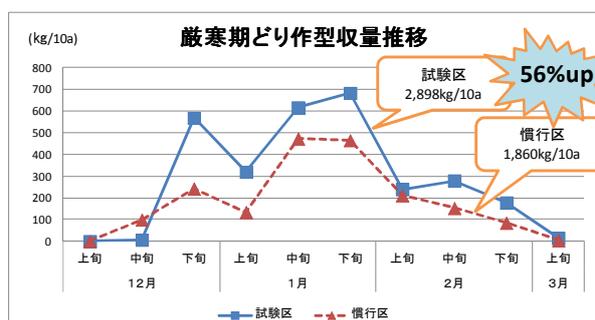


図1 収量の推移

○今後の取り組み

②EOD反応を利用した花き類の低コスト栽培技術

○要約

11

10

EOD-heating

12

14

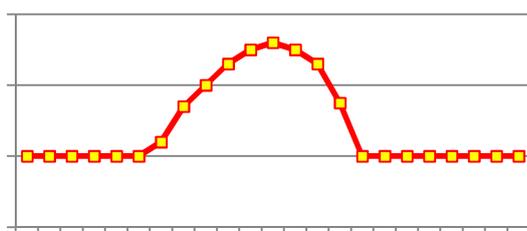


図1 ハウス温度の推移 11~4月



写真1 EOD 加温によるダリアの栽培

○今後の取り組み

③カキ「秋王」の着果安定に向けた栽培技術の検討

○要約

200ppm

10

2.6

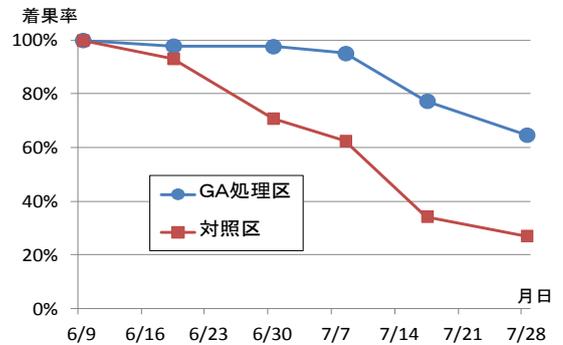


図1 着果率の推移

○今後の取り組み

	着蕾数	生育中の落果	摘蕾摘果	着果数
平棚栽培	13.7	4.7	6.5	2.6
立木栽培	15.8	9.8	5.7	0.3

表1 栽培法の違いによる結果母枝あたりの着果状況の推移

④「筑穂牛販売促進協議会を設立（筑穂牛コロッケを開発・販売へ）」

○要約

1,250



写真1 コロッケの販売



写真2 販売促進協議会

○今後の取り組み

(9) 各種表彰 (国・県)



嘉麻市 豊田 武 氏・千代子 氏

創意工夫の花き経営技術が全国で表彰

26 に実 された「第24回 の国づくり共励会、き ・ 営コンクール」に おいて、嘉 の ・千代子夫妻が 林 を受 されました。

コンクールは、全国から 募のあった中から、特 に や 営内 に優れた 営 を受 するもので す。

氏 は 和44 に 、 ギグ に取り みました。 和50 に千代子さんと 婚した は二人三 で 営の 大をすすめ、 在は50aのハウ スでキク、トルコギキョウを主体とした き 合 営 を しています。 には(フ)フラワー ランド を し、さらなる 営 大と地域 にむけた取り みに されています。



豊田 武・千代子夫妻

宮若市 安田 一平 氏、 嘉麻市 久家 滝太 氏

若い農業者が農業の魅力や新たな可能性を発表

「 26 会 」において、 氏 の安 一 が「 ×デザイン～ 力ある プ ロジェクト～」のプロジェクト を、 事、 井 を受 されました。

をより 力 にするためにプロダクト、セールスマー ケティング、マネジメントの3 から分 した 力 あるビジネスモデルの に取り んだ が 価されま した。



安田一平氏 (中央)

また、同会 において、嘉氏 の久 太 が「 から一企 へ」の を、 事 を受 されました。

前に学んだ 営学 から 業の き 営のビジ ョンを、具体 に新たな品 の 入に取り んでいる が 価されました。



久家滝太氏

各種表彰（国・県）一覧（1月～12月）



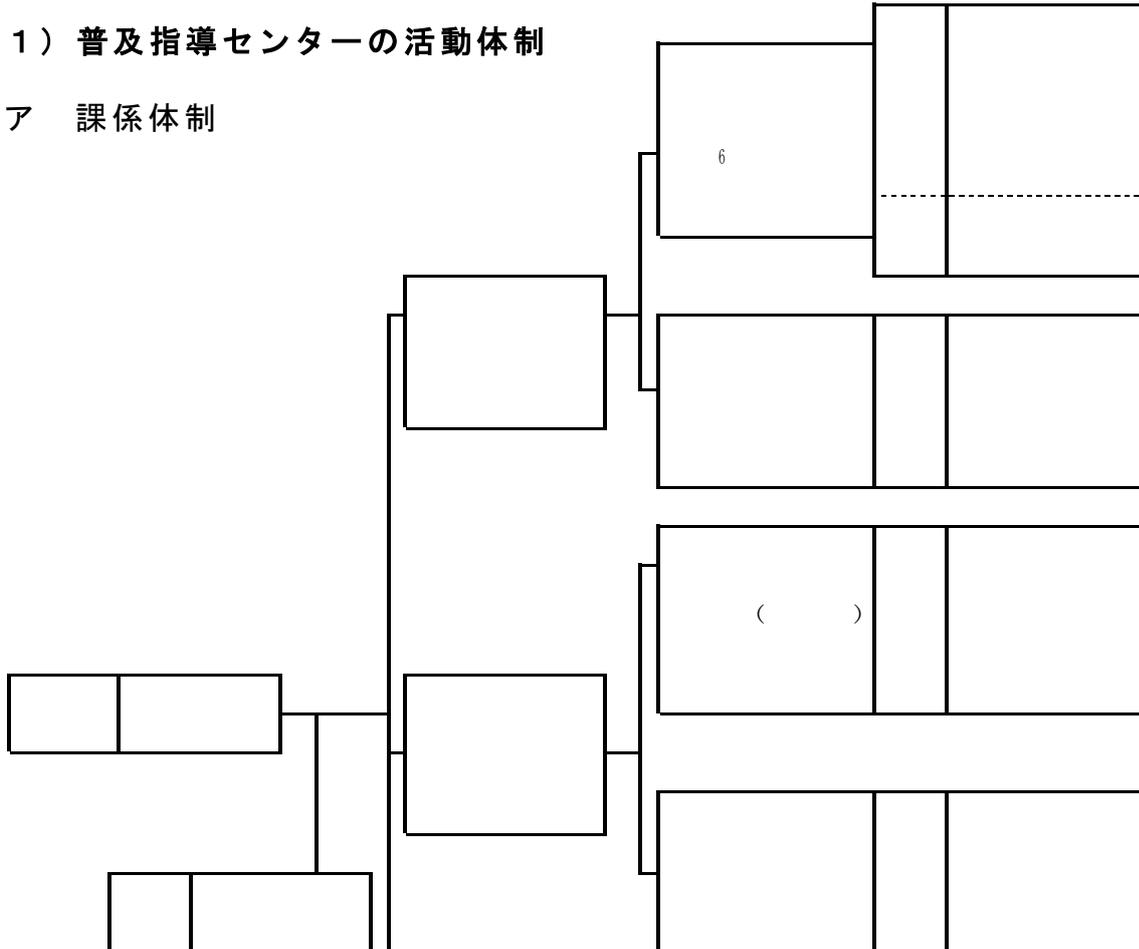
表彰事業名	受賞者名 (敬称略)	受賞内容	市町名
平成 26 年度福岡県花き品評会			
「産物の部」	樋口 信勝	福岡県知事賞 キク「ラベロー」	桂川町
	久家 大	審査員特別賞 ジニア「フルダブルライム」	嘉麻市
「技術・ほ場の部」			
トルコギキョウ	澄川 義延	福岡県市場協議会長賞 「グラナスライトピンク」	宮若市
	石田 豊隆	福岡県花き園芸連合会長賞 「ロジーナラベンダー」	直方市
夏秋咲ギク（露地部門）	山本 一則	九州花き卸売市場連合会長賞 「精さやか」	飯塚市
夏秋咲ギク（施設部門）	豊田 武	九州山口花き園芸連絡協議 会長賞「夏日和」	嘉麻市
第 24 回花の国づくり共励会 「花き技術・経営コンクール」	豊田 武・千代子	農林水産省生産局長賞	嘉麻市
平成 26 年度福岡県麦作共励会	浦部 篤	優秀賞（福岡県農業協同組 合中央会会長賞）	鞍手町
平成 26 年度福岡県アスパラガス 生産振興共励会「県北の部」	瀬在丸 政美	反当収量優秀賞（全農福岡 県本部長賞）	飯塚市
平成 26 年度福岡県青年農業者会 議			
「プロジェクト発表」	安田 一平	福岡県知事賞、石井賞「農 業×デザイン～魅力ある産 業確立プロジェクト～」	宮若市
「意見発表」	久家 滝太	福岡県農業振興推進機構理 事長賞「農家から一企業へ」	嘉麻市
第 50 回福岡県肉畜共進会 「肉豚の部」	松本 修	金賞（農林水産大臣賞） （福岡県知事賞） （肉畜共進会会長賞）	赤村
第 43 回西日本地区肉用牛交雑種 共進会	武田 英文	金賞（九州農政局長賞） （福岡県知事賞） （福岡市長賞）	田川市



3 参考資料

(1) 普及指導センターの活動体制

ア 課係体制



イ 班活動の体制

(2) 現地実証・展示ほ一覧

No.			
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			

No.				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				

(3) 現地活動情報一覧

No.	タイトル	月日	執筆者
1	安全で安心な農産物の生産・販売に向けて ～J A直鞍で安全・安心農産物関連制度説明会を開催～	4月24日	平山
2	直売所の販売拡大に向けて消費者交流を準備 ～廃園対策も含めて栗園の園地整備～	5月8日	下村
3	めざせ！全国和牛能力共進会 ～福岡プレ全共素牛入札会を開催～	5月12日	勝屋
4	高品質な梅生産は土づくりから ～J Aふくおか嘉穂の梅出荷が始まる～	5月21日	重見
5	若手肥育農家のための勉強会を開催 ～牛肉の生産から加工、口に入るまでを学ぶ～	5月25日	竹村
6	「あまおう」づくしツアーに応援ファミリーも大満足！ ～嘉穂4Hクラブが農業農村体験ツアーを実施～	6月1日	横田
7	販売拡大に向けて消費者との連携を強化 ～第7回「農事組合法人ドリームホープ若宮」の通常総会開催～	7月2日	平山
8	仕事を面白くするための思考ポイントを学ぼう！ ～営農基礎講座経営改善研修会を開催～	7月10日	内川
9	担い手の育成・確保の取組を先進事例に学ぼう！ ～嘉麻市農業委員会担い手の育成・確保に係る事例発表会～	7月29日	飯田
10	秋のイベントに向けて野菜の生産を拡大 ～直鞍地域の直売所出荷者を対象に野菜講習会を開催～	8月11日	角野
11	地域農業の発展に向けて若い力が切磋琢磨！ ～筑豊地区青年農業士宅視察研修会を開催～	8月25日	長沢
12	将来の農業に携わる人材の育成を目指して ～農業関係高校と普及指導センターの情報交換会を実施～	9月5日	内川
13	品揃えの充実で、魅力ある直売所に！！ ～直売所の更なる発展に向け、勉強会を開催～	9月11日	藤井
14	法人経営に向かってステップアップを開始 ～企業的経営へ向けた社長講座を開講～	9月12日	松元
15	長野ばあちゃんが郷土料理技術を伝承 ～女性農業者の6次産業化（農産加工）による起業活動支援～	9月12日	大久保
16	集落営農組織交流研修大会を開催 ～農政を把握し、これからの集落営農組織のあり方について考える～	10月2日	轟
17	長雨にも負けず！花づくりの技を競いあう ～飯塚園芸組合花き品評会開催～	10月9日	兼近
18	来たれ新規就農者、飯塚へ！！ ～飯塚市がんばる農業応援協議会発足～	10月23日	藤野
19	経営ビジョンを作って夢の実現を！ ～女性農業者が農業経営参画するための能力向上研修を実施～	10月23日	大久保
20	農業の魅力、発見！ ～飯塚地区高校生農業セミナーを開催～	10月29日	内川
21	「筑穂牛」の販売促進に生産者・関係者が一致団結！ ～筑穂牛販売促進協議会が発足～	10月30日	竹村
22	新たな技術を知り、モチベーションもアップ！ ～イチゴ若手生産者の研修会を開催～	11月18日	坂口

23	夢のある農業プランをみんなでつくろう！ ～宮若市「人・農地プラン」策定座談会開催～	11月25日	田村
24	オンリーワンのブーケで筑豊の花をPR！ ～若手生産者が県庁ロビーで花を販売～	11月26日	長沢
25	より良い普及活動を目指して ～平成26年度普及事業推進会議を開催～	12月1日	空閑
26	直売所の販売拡大に向けて特産品の開発を支援 ～農産物直売所「ドリームホープ若宮」による栗園整備～	1月6日	平山
27	経営ビジョンを作って夢の実現を！（パート2） ～女性農業者を対象に農業経営計画とライフプランの作成研修を実施～	1月19日	大久保
28	飯塚で農業やらんね ～飯塚市独自の新規就農支援がスタート～	1月21日	藤野
29	柿新品種「秋王」を作ってみませんか ～JAふくおか嘉穂で新品種導入を推進～	1月30日	重見
30	ピンチをチャンスに、持続可能な地域農業の創造 ～集落営農・法人化にむけての研修会実施～	2月3日	轟
31	施設軟弱野菜の導入で米価低迷を乗り切ろう ～大規模米作農家による軟弱野菜視察研修会を開催～	2月3日	安部
32	エコ農産物認証トマトが出荷開始 ～JAふくおか嘉穂トマト共販グループ発会式が開催される～	2月6日	安部
33	トンネル栽培の導入で、目指せ所得向上！ ～JAふくおか嘉穂オクラ部会が生産販売反省会を開催～	2月16日	坂口
34	他産業と農業の連携で地域活性化を！ ～女性農業者・新規就農者・青年農業者研修を実施～	2月26日	大久保
35	安全・安心な果実生産に向けて ～鎮西果樹部会で果樹病虫害防除暦説明会を開催～	2月27日	下村
36	目標の実現に向けて4Hクラブ員が躍動！ ～県4Hクラブ50周年記念式典で活動成果を発表～	2月28日	瀬戸山
37	「作業計画・管理支援システム」を活用して効率的な経営を目指そう ～「水田農業個別大規模経営者交流研修大会」開催～	3月6日	外園
38	直轄地域の農産物生産力向上を目指して ～野菜の出荷量増加・安定生産に向けて講習会を開催～	3月10日	角野
39	良質たい肥の売上げアップを目指して ～POPを使った販売促進～	3月11日	福原
40	先進技術を学び、地域を牽引するリーダーに！ ～嘉穂4Hクラブが先進地視察研修会を実施～	3月11日	横田

飯塚普及指導センターのホームページでもご覧いただけます！

上記の「現地活動情報」はホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。



飯塚普及指導センター

検索

HP: <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/>



(4) 普及指導員調査研究一覧

()

No.	課 題 名	結果の概要	部門	担当者
1	女性農業者支援活動の実態と今後の課題	女性農業者支援活動のこれまでの経過を整理し、女性農業者へのアンケートから今後の女性農業者の支援方向を研究した。	地域	大久保
2	農業経営における家族外労働力の活用の現状と課題について	経営規模の拡大時の労働力不足を、雇用や外部委託により解消する際の留意点を調査した。円滑な規模拡大の参考にする。		松元
3	JAふくおか嘉穂柿部会(庄内支部)産地維持の要因について	地縁・血縁からの新部会員の確保、売買による園地継承、支部全員の技術支援等の要因により産地が維持されていることが明らかになった。		○内川 田村
4	飼料用米(ミズホチカラ)の収量向上・確保	収量向上のための施肥体系と実肥による玄米タンパク質含量向上実証を行った。分施肥体系が最も収量が高かったが、玄米タンパク質含量については、効果が判然としなかった。	水田農業	○外園 飯田
5	大豆収量向上に向けた排水対策	排水不良要因となっている鋤床層の物理性改善を行った。スタブルカルチによる深耕は排水性向上に繋がった。簡易籾殻暗渠については、今後、排水効果の持続性の検証を行う。		○轟 飯田
6	フィルムの周年展張がイチゴの生育に及ぼす影響について	周年展張による定植時の地温上昇がイチゴの生育に及ぼす影響について調査したが、夏期の低温傾向により地温があまりあがらず、生育への影響が認められなかった。	野菜	角野
7	ブロッコリーの耐寒性品種の検討	「耐寒性」の高い品種の検索のため、4品種の展示比較を行い、ブロード社の「むつみ」、「ともえ」が既存の品種より優れていた。		安部
8	露地ギクの電照による開花調節の実証	露地ギク7月咲き品種について、電照による開花調節により9月出荷の作型を実証した。優良品種にしぼったブランド化推進を図る。	花き	兼近
9	ダリアの産地化に向けた安定栽培技術の確立	10		長沢
10	開花前の摘芯処理程度が「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響について	開花前の房先3～5節の強摘芯処理は「シャインマスカット」の果粒肥大を促進し、果実品質を向上する事が判明した。	果樹	下村
11	カキ「秋王」の着果安定に向けたジベレリン処理の検討	GA処理後約1か月までは、結実率は高かったものの、8月ごろまで落果の発生が続いた。		重見
12	イチジク「とよみつひめ」における防寒資材としてのアルミ蒸着シートの効果	冬期にアルミ蒸着シートを樹体に被覆することで、凍霜害による主枝の枯死および芽枯れを回避し、安定生産を図る事が出来る。		横田
13	酪農における飼料米の簡易加工と給与効果の検討	飼料米を粉碎することにより、未消化籾の排泄が減少し、牛群の乳量は向上した。	畜産	勝屋
14	和牛繁殖農家の飼養管理改善による子牛の安定生産	3戸の繁殖農家に対し発育調査結果に基づく飼養管理改善を行い、改善1戸、現状維持2戸となった。		福原
15	和牛肥育前期飼料の変更が増体に及ぼす影響について	肥育前期飼料を単純化したところ、前期増体に変化はなかった。		竹村

5) 飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会活動実績

部会	課題・計画	成果・実績
担い手育成	交流研修大会等の実施	組織代表者、大規模経営個別農家等を対象に、経営の発展や法人化推進を目的に2回研修交流会を実施した。
	新規就農者確保のための農業関係高校セミナー実施	嘉穂総合高校、鞍手龍徳高校生徒を対象に、生産ほ場や出荷施設等を視察・実習を行い農業の理解を図った。
	若い農業者育成のための経営改善研修会や営農基礎講座実施	新規就農者を中心に、共通講座と部門別(5部門)コースでの勉強会を行った。
農業経営指導	講座、研修会等開催による経営管理能力向上支援	経営管理講座(初級・中級コース)を兩催し、簿記基礎や経営分析手法の習得等について支援した。
	雇用型経営確立支援 社長講座実施	重点支援農家に対して、カウンセリング・コンサルテーションを通じた技術・経営改善の支援を行った。 認定農業者のモデルとなる経営者を育成と法人経営設立に向け、外部講師による専門的内容のカリキュラムにより5回の講座を行った。



平成26年度
職場改善運動 キラリ☆アイデア賞 (職員発表賞)

所属	取組内容
飯塚普及指導センター	<p>●サンクスカードによるコミュニケーション向上</p> <p>○サンクスカード（ありがとうカード）の取組 ・「ありがとう」の気持ちをカードに書いて、所内のコミュニケーションを「見える化」 ・職員全員がサンクスカードを毎月1枚以上書いて、相手に手渡す。 ・毎月カードを累計し、多く書いた人、多く貰った人を表彰。 ・サンクスカードを執務案内に掲示（職員同士の気づき促進）。</p>

コミュニケーションが確立。それぞれの職員が笑顔の姿を見て気持ちよく、業務上の関係が深い職員ともコミュニケーションが円滑に。

みゆさんの職場でも賞状・応用してあるトン！

平成26年度福岡県職域表彰 (知事表彰)

水稲苗いもち病防除体系確立による ふくおかエコ農産物の推進

●受賞職域
飯塚農林事務所
飯塚普及指導センター

●受賞内容

平成24年度にふくおかエコ農産物認証制度に積極的に取り組んでいる水稲育苗センターで苗いもち病が多発し、特別栽培米生産の根幹を揺るがす甚大な被害が起きた。

平成25、26年度に育苗センターにおいて、生物農薬、抗生物質剤の使用、育苗施設薬剤の播種同時処理の3本柱の処理方法を組み立て、苗いもち病の発生を抑える技術体系を確立した。

これらの取組みにより、ふくおかエコ農産物の認証面積は平成26年度には過去最高の70haと拡大した。ふくおかエコ農産物としてさらなる減農薬・減化学肥料栽培を推進します。

新防除体系による播種風景
田植を待つ健康に育った苗

福岡県飯塚農林事務所飯塚普及指導センター

〒820-0089 福岡県飯塚市小正319-1
 TEL:(0948)23-4154
 FAX:(0948)29-4866
 E-mail:iizuka-dlc@pref.fukuoka.lg.jp
 HP:http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704804/

福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703419
登録年度 26	登録番号 0001